

「子どもたちの戦争体験」が人気です！

本日、セッション杉並では、学童集団疎開実施 70 周年を記念したパネル展が始まりました。この展示会は、杉並区立小中学校で校長や教頭をされていた方々の集まりである「愛杉会・あいさんかい（森田厚会長）」が企画したもので、多くの来場者で賑わいました。

第二次世界大戦末期、日本の戦局は不利に追い込まれ、米軍からの本土攻撃に備え、大都市の国民学校初等科の児童をより安全な地域へ一時的に移住させました。これは、昭和 19 年 6 月 30 日に閣議決定された「学童疎開促進要綱」に基づくもので、杉並区でも昭和 19 年 8 月に、3 年生から 6 年生が長野県と宮城県へ疎開が実施されました。昭和 20 年 5 月には、さらに 1 年生から 6 年生の疎開が実施されました。

それから、70 年が経過し戦争の記憶も風化しつつあります。そんな中、メンバーの一人である久保田恵政（くぼたしげまさ・85 歳）さんは、自分が経験した学童集団疎開の記憶を通して、戦争の愚かさや平和の尊さを伝えたいと考えました。



久保田さんは、愛杉会メンバーの中で、数少ない子どもたちを引率して疎開した経験を持っています。久保田さんは、昭和 20 年 3 月に旧制中学 4 年で繰り上げ卒業となり、4 月に和田国民学校初等科に 15 歳の若さで助教として赴任しました。そして、5 月には子どもたち 300 人ほどと長野県の春日湯沢温泉に疎開しました。温泉宿の「和泉屋・いずみや」と「十二館・とにや」に寝泊まりしていたことを懐かしそうに話していました。

その久保田さんが、書き綴った記憶と資料は 40 枚ほどのパネルとして、展示されています。夏から、久保田さんが一人でコツコツと作業を積み重ねてきた労作です。久保田さんは、「ぜひ、多くの方に見てもらって、子どもたちが戦争によって、つらい思いをするようなことが無いようにしてほしい」と話していました。

「子どもたちの戦争体験」

- ・日時 12 月 19 日（金）～12 月 22 日（月）10 時～18 時 *22 日は、16 時終了
- ・場所 区立社会教育センター（セッション杉並）

杉並区梅里 1-22-32 電話：3317-6621

【問い合わせ先】 総務部広報課：03-3312-2111